

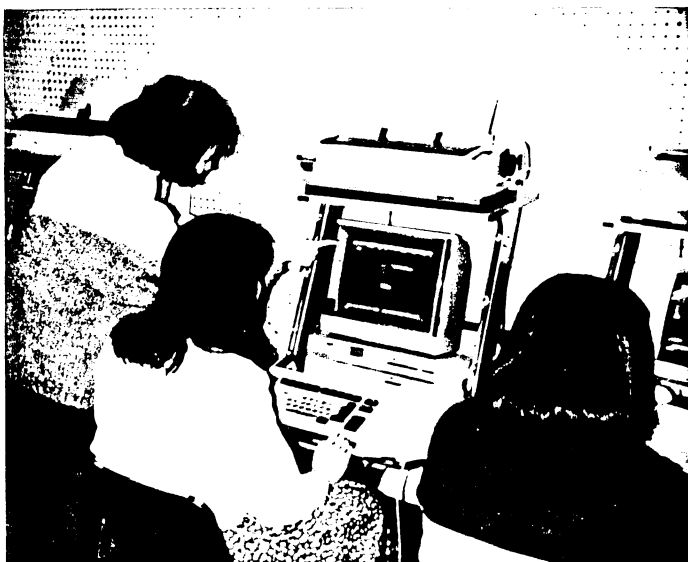
# 富山大学 教育学部 附属教育実践研究指導センターニュース

第 1 1 号

CENTER NEWS

CENTER FOR RESEARCH AND TRAINING IN TEACHER EDUCATION

FACULTY OF EDUCATION , TOYAMA UNIVERSITY



コンピュータ講習会にて

## 目 次

- 
- |   |   |
|---|---|
| 1. 新教育課程下の教育と実践センター …センター長 佐々木 光三…      | 2 |
| 2. 本学部教育実習の事前、事後の指導<br>および”事中”指導をめぐる問題点 | 3 |
| 3. センターの情報ベースとしての役割について                 | 4 |
| 4. センターBBSについて                          | 5 |
| 5. スタジオについて                             | 6 |
| 6. JOIS, DIALOG検索システムについて               | 7 |
| 7. 寄稿 センターを利用して … 教育学部4年 金津 知賀 …        | 9 |
- 

1992年5月

# 新教育課程下の教育と実践センター

センター長 佐々木 光三

教職員免許法の改正に引き続いた大学設置基準の抜本的な改正があり、制度改革の問題は、時代の流れとして、大学・学部の状況を踏まえた検討が本格化してきた。

さらに、週5日制の導入、入試日程の変更などが加わり、新教育課程の下で、学生の生活はかえってゆとりに乏しいものになりかねない。方法上の改善が望まれるゆえんである。

他方で新採教員には初任者研修が行われ、学部が実施する教育、特に実習のあり方には、このような条件の変化からも再検討が求められている現状である。

センターは教養員養成乃至教師教育の改善という固有の目的のため、具体的に何をなすべきか、あくまで実証的な研究成果に立脚しつつ今後のあり方を見定めて行く必要がある。

教育実習の「事前及び事後の指導」という名の単位増は、センター協議会でテキスト編集の試みなどもあったが、理論から実践へ、実践から理論への循環的発展のための条件作りというべき内容を、1単位の増加に盛り込むのは無理であろう。いうまでもなく、実習も含めて、全体カリキュラムの検討・評価・改善のサイクルが恒常的に働くことが必要なはずである。その意味で新大学設置基準第2条にいう「自己評価体制」の組織や活動は、学部独自のレベルでも機能するようになるのかどうか、今後の課題であろう。

一方「新課程」である情報教育課程は、全学部を挙げての運営という基本方針の下、新教育課程の「教育方法及び技術」との関連もあり、その存在は教師教育の観点からも望ましいといえる。本センターでは従来からも今後も本課程への支援協力を惜しむべきではないと考えている。しかし学生数の増加に伴い、センター利用頻度の増大、設備の不足と陳腐化、施設の狭隘等が現実の問題化してきた。

このようにセンターをめぐる変化への期待や契機はきわめて多いが、その実現を制約する条件もまたきわめて厳しいものがある。限られた条件の中では、オブティマムといっても、所詮Incrementalにしか達成できないものであろう。

センターにおいては当面、様々な関連メディアを学生も教官同様、あるいはそれ以上に活用出来る体制を整えることが必要と考える。本センターでは、開設以来ビデオライブラリ等資料の充実を目指すと同時に、データベースの構築にも意を用いてきた。昨今専任教員の創意と努力で、種々の面においてレトリバルの改善が進み、新しい情報のネットワークも広がっている。また実習などにも利用度の高い諸テキスト及び関連資料の充足も

今後計画的かつ早急に進めたいところである。物理的な制約は無視できない状況であるが、いろいろな工夫で目標の実現に努力したいと考えているので、御要望やご意見をこれまで以上にお寄せ頂くようお願いする次第である。

## 本学部教育実習の事前、事後の指導および ” 事中 ” 指導をめぐる問題点

### (1) 事前指導について

一般に教育実践演習などとして、マイクロティーチングを中心とする教授スキルの指導などが行われており、その効果についての報告も多い。本学部の場合全学生に対する実施については困難で、集中方式によって実施してきたのであるが、なお今後の重要な検討課題である。教員養成実地指導講師の活用については55年度以来毎年の評価検討を繰り返しながら、内容などに多少変化を加えて今日に及んでいるが、・委嘱及び科目開設の時期・開設の趣旨、目的、内容についての理解と連携（教育委員会等との連絡）・実習の全体構造への位置づけ等、将来に向かって改善のくふう努力を怠ってはならないであろう。

### (2) 観察参加及び事前指導について

従来観察参加については学生の評価はかなり高かった。事前の連絡方法や指導を含め、附属各学校の改善への創意・努力は多としなければならない。しかし、なお改善の余地があるように思われる。特に、全学的4年一貫教育のシステムとの関連で、新しい視点から見直すことも必要であろう。

### (3) 事後指導について

従来国立教員養成大学・学部において、事後指導を全体計画に位置づけているものは少数にとどまっていた。本学部においても実習後の指導のあり方、その内容、方法、時間数など今後の改善にまつべきものは多いといわなければならない。課題報告の形式は決して最善のものとはいえない。今後継続的な調査研究が望まれる。

### (4) 事中指導について

近年の現象として、学生気質の変化が実習校側から指摘されたり、特に指導上留意すべき学生の存在など、附属校園や、実習校と学部とのよりきめ細かな連絡が必要になっている。教職をめざさない学生が各課程を通じて増加している今日、教育実習の意義や条件はもちろん、これはprivilegeであるとの意識をもたせることの指導も必要であろう。

## 実習の評価について

実習の評価については、人的、物的な条件、あるいは時間の制約なども考察に加える必要がある。上記のように、実習中の指導、すなわち実習校の指導教官と、学部教官の連携指導については制約もあるがそのことが事後指導とも関連して実習効果の向上を妨げている実態もみられるので、その方法や、現行の方式について再検討をすすめることも必要ではなかろうか。

(佐々木 光三)

## センターの情報ベースとしての役割について

学習指導要領の改訂に伴う学校教育の情報化、大学カリキュラムの改定、新課程の設置とめまぐるしく変化する教育・研究環境の中、当センターの果たす役割は益々重要になってきています。センター利用も活発で、センター内の各ルームは毎日のように教育・研究活動を行う学生・教官で溢れています。このような利用者の増加と利用形態の多様化に伴いセンター内の各種教育・研究資料、機器は膨れ上がり、今後の保管スペース確保の問題も生じています。

センターではこれに対応すべく一昨年度より所有している諸資料、設備・機器の情報をデータベース化し電子管理するプロジェクトを実行してきました。現在運用しているデータベースは、＜VTRソフトウェア＞、＜保有機器＞、＜指導案＞に関する情報ベースです。これらの情報は、センターの研究、管理運営での活用のみならず、センター利用者にも提供しております。

現在の情報提供サービスの方法は以下の3通りです。

### (1) C - B A S E : 教育研究ベース (マルチメディアシステム)

パーソナルコンピュータを活用したシステムでセンター長室に設置してあります。コンピュータがVTRを制御し、VTRソフトウェアの一部を自動検索し映写することもできます。キーワード検索、部分一致検索と商用データベースと変わらない機能が使えます。

### (2) E N T E R : 学外ネットワーク

センターでは公衆電話回線を活用したパソコン通信のホスト局 (BBS) を運営しております。このホストプログラムには本格的なデータベース機能が備わっており、現在これを活用した情報提供サービスを実施しています。キーワードの部分一致検索や複合検索が可能です。

### (3) T U T O R : 学内ネットワーク

情報処理センターの運営するホスト局の電子掲示板に当センターのボードが設置されています。現在この中で、情報提供サービスを行っています。

(センター専任教官 吉田 雅巳)

注)

(1) C - B A S E と (2) E N T E R には、検索機能が備わっていますが、(3) T U T O R では残念ながら検索はできません。ボードタイトルを参考に情報を選択ください。



## センター B B S について

先にご紹介したように、センターでは、主に教育関係者・研究者を対象としたパソコン通信ホスト局 (B B S) を運営しています。この B B S では、一般公衆電話回線を利用して遠隔地の先生方と容易に情報交換を行うことができます。局名は、E N T E R (Educational Network for TEachers Research) といいます。現在会員数は 90 名を越えました。

このプロジェクトは、1 年半前より行ってきたもので、この間より幅広いエリアの方々との情報交換を容易にするために、パソコン通信専用のデータ転送サービスを行っている Tri-p とパケット契約を結びました。これにより全国どこからでも一律低料金の電話料で E N T E R にアクセスすることができるようになりました。以来、日本各地の先生方からのアクセスをいただいております。

### < B B S の特徴 >

- ① C - B A S E とデータを共有する、本格的なデータベース機能。
- ② 電子メールを含めて、どのボードでもバイナリーデータの読み書き (X-modem) が可能。
- ③ センターが独自に開発したソフトウェアの唯一の配布場所である。ことなどです。

初心者の方のアクセスを予想して、ホストコマンドは簡単なものを精選してあり、容易に慣れることができるように配慮しました。

会員のコミュニケーションの中心となる「電子掲示板」では、以下のようなコーナーを設定しています。

[ B B S        ] (-----) <drw> 電子掲示板

- 1. [SYSINFO ] (    50) <-rw> システムからのお知らせ
- 2. [ENTER    ] (    34) <-rw> 入会申込 (書き込み専用)

- |                       |       |                        |
|-----------------------|-------|------------------------|
| 3. [CENTER ] (-----)  | <drw> | 実践センター関連情報             |
| 4. [FREE ] ( 231)     | <-rw> | フリートーク                 |
| 5. [TEACHER ] (-----) | <drw> | 教員ボード (SIG)            |
| 6. [MEDIA ] ( 24)     | <-rw> | 電腦狂育実践人                |
| 7. [CHIGA ] ( 101)    | <-rw> | 知賀の部屋 (OP:CHIGA)       |
| 8. [X68K ] (-----)    | <drw> | 68 倶楽部 (OP:YA-MA)      |
| 9. [FREESOFT] (-----) | <drw> | 各種フリーソフト, XMODEM使用     |
| 10. [UIR ] (-----)    | <drw> | The Team for UIR (CUG) |
| 11. [YOSHIDA ] ( 126) | <-rw> | 吉田研究室 (CUG)            |
| 12. [README ] ( 3)    | <-rw> | 入会申込書 (読専用)            |

草の根 B B S ですので、入会及び使用料は無料です。パソコン通信に興味のある方はぜひアクセスしてみてください。

(吉田 雅巳)

#### <アクセスデータ>

TEL 0764-32-8232 TRI-Pニモニック: CXENTER

1200, 2400BPS (MNPクラス5)

N81、X-MODEM有

ゲストID: GUEST

ゲストパスワード: GUEST

(オンラインサインアップで入会できます)

#### スタジオについて

##### <編集システム>

センター各所に分散していた映像関連機器を移動しスタジオに取り纏めました。これにより、授業・研究での利用がしやすくなり、現在は活発に使われています。今後も、機能の充実をしてゆきたいと思いますが、現状のシステムの整備状況をお知らせいたします。

システムA: 研究、教育用システム。家電製品を中心に組み合わせたシステムです。

- ① β、VHS、8ミリからVHSへのダビング録画機能
- ② コンピュータによるスーパーインポーズ機能
- ③ オーバーラップも可能なデジタルエフェクト機能
- ④ CD効果音などを使った編集もできるオーディオ編集機能

システムB: 研究・教育用システム。業務用VHS編集機です。

- ① エンハンサー機能
- ② インポーズ機能

③ 高機能エディティング・コントローラー

システム C：ダビング専用システムです。簡単に使うことができます。

①  $\beta \rightarrow$  VHS ダビング編集

② VHS  $\rightarrow$  VHS ダビング編集

システム D：簡易編集システム。業務用 VHS システムです。

① インサート編集

② アッセンブル編集

システム E：映像資料視聴システム

① VHS 資料の視聴

② Uマチック資料の視聴

③ 「新潟 NT 21」（テレビ朝日系列）放送の視聴・録画

④ Uマチック  $\rightarrow$  VHS のダビング編集

<スタジオ機能>

編集システムをスタジオ内に設置した関係で撮影のためのスペースは多少狭くなりましたが、利便は充実させました。すなわち、照明の配置替えを行い光源を集中し、特に机上の映像教材作成が容易に実現できるようにしました。カメラは3管式、CCD式を共に常設しいつでも使用できるようにしてあります。また、編集システムとの距離が近いので直接、編集システムに接続し録画することも可能になりました。ホリゾンも小さいながらも数種あります。

現在スタジオは、大変高い利用率です。教育・研究で利用される場合には内線 2540 で授業・研究活動などの利用状況を確認の上、予約されることをお勧めします。

（吉田 雅巳）

JOIS, DIALOG 検索システムについて

研究活動で盛んにご利用頂いております JOIS（和書・和雑誌が中心）と DIALOG（洋書・洋雑誌が中心）の2つの商用データベースへのアクセスがより高速となる通信システム及びソフトウェアを改良いたしました。

具体的には、これまでの2倍以上の高速情報検索を実現する、2400BPS, MNP-5までに対応したシステムをセンター2Fの訓練プログラミング室に設置しました。操作方法是これまでとほとんど同じです。ご利用の際は、次に示したご準備を頂いた上で、センター事務室（内線 2540）にいらしてください。

① 検索領域、項目を決定してください。

(検索領域により異なったデータベースにアクセスします)

② 特に文献名、キーワード、著者名のいずれで検索するかを考えておいてください。

(キーワード検索をされる場合には、あらかじめ5つ程度のキーワードを用意しておいてください。JOISの場合：和文カタカナ、DIALOGの場合：英語)

③ 検索結果を何件程度に絞り込むかを考えておいてください。

(絞り込みが不十分ですと莫大な費用がかかります)

④ どこまでの内容を閲覧するかを決定しておいてください。

(文献題名、著者、雑誌名、キーワード、概要のうちどれだけが必要か)

⑤ 費用

・ 電話料金：センターが負担します

・ データベース利用料金：利用者の研究費より支出します。印鑑をお持ちください。

(検索費用は実行してみないとわかりませんが、目安として1件あたり100円程度を考えておいてください。)

(吉田 雅巳)

#### 参考) JOIS による検索 (見本)

(検索手順)

U: リカ	← キーワード 1 (半角カタカナ入力)
[ 1] S:                    2576    リカ	← 検索件数 1
U: コンピュータ	← キーワード 2
[ 2] S:                    86,140    コンピュータ	← 検索件数 2
U: 2*1	← 2 と 1 の論理積の検索
[ 3] S:                    36        2*1	← 論理積の検索結果
U: ¥P A/1-36	← 検索された6件の全ての 情報を表示させる指示
	← 以下、文献情報が6件分 表示される

(検索結果)

TI:タイトル ET:英文タイトル

AU:著者 JN:雑誌名 VN:巻、号など

CI:その他備考 AB:概要 CC:登録番号

KW:キーワード

AB:アブストラクト





## 寄稿

### センターを利用して

教育学部 4 年 金津知賀

私が教育実践センターを利用するようになって、ちょうど1年くらいたちましたが、この1年の間、センターを使用することがあまりにも多かったので、今ではセンターはなくてはならない存在になっています。

それでは私が、どのようにセンターを利用しているかというと、まずコンピュータの使用です。センターではMacintoshを使用することが多いのですが、これは授業で使う以外に、例えばワープロとして利用することがよくあります。Macintoshを使えば、グラフも簡単に描くことができるので、レポートを書くときなどいつも利用させてもらっています。たかがワープロとしての利用なのですが、それでもコンピュータにはずいぶん馴れたように思います。

コンピュータに対する抵抗感や恐怖感といったものもなくなったと思います。

それからコンピュータの使用以外では、センター内の映像教材開発室をよく利用しました。ここは、我々がスタジオとよんでいるところで、撮影や編集などの映像系の作業ができます。我々がここで行ったのはビデオ作成です。ビデオ作成は、ある授業の課題だったのですが、作業はほとんどこのスタジオで行いました。

我々がセンターを利用するようになったのは、ほんの半年くらい前のことですが、センターを利用することがあまりにも多く、センターにいる時間が長かったからでしょうか、今ではセンターは我々のコミュニケーションの場にもなっています。

印刷 平成4年5月25日

編集発行 富山大学教育学部  
附属教育実践研究指導センター

代表者 佐々木 光三  
〒930 富山市五福3190  
電話 (0764) 41-1271  
内線 2540～2542, 2149